

## 7・20日航404便ハイ・ジャック闘争貫徹万才!

## 決意表明

世界赤軍兵士 丸岡 修

「プロレタリアートに祖国はなく、プロレタリアートに家族はない」(マルクス)

朝鮮人民、ベトナム人民、パレスチナ人民にとって、祖国、家族、友人はすでに帝国主義者によって奪い去られたのだ。

虐げられている人民に自らの命を捧げた三戦士によるテルアビブ闘争万才!

世界革命の最前線に立ち、世界の人民に革命のテーゼを送る不屈の、インドシナ人民の勝利万才!

「オリンピックの夢」を見事に粉砕した「黒い九月」の同志達万才!

日本全国で、三里塚で、北富士で、水俣で戦っている人民に勝利あれ!

世界人民の大団結万才!

同志諸兄! 狂犬ども(日本国官憲)は、私の無関係を一番よく

「いわれなき予防検束」を企んできたか。どんなにお前達が狂って、「人民の意志」はくじけることがないのだ。お前たちの気狂いじみた弾圧が我々を左に、左に追い込むのだ。お前たちの弾圧が、我々を強くしているのだ。我々は飼い主を含めたおまえたちを一匹残らず地上から絶滅させるまで闘い続けるだろう。

再び同志諸君! 敵に我々の威力を思い知らせようではないか。「敗北した軍隊は自らの誤ちを見つめる」我が革命戦争派は、幾度も組織解体の危機に瀕したが故に、敗北を教訓として生き延びている。昼間は一般市民として、夜間は都市ゲリラとして「神出鬼没」の軍隊を創ろうではないか。敵に味方する者は確実に減少し、革命派に味方するものが確実に増加している。我々は着々と自らの力を鍛えつつ、反撃の日を準備している。

我々は知っている。日本で生産されているナバーム弾が、ベトナム人民の頭上へ落とされているのを。撤兵と称して爆撃を強化しているアメリカ帝国主義を。国際世論を巧みに操作し、パレスチナ人民、ユダヤ人プロレタリアートを侵略、抑圧しているシオニストを。自国民までを殺せと、司令するシオニストを。在日朝鮮人民、中国人民から呼吸する自由までも奪い去っている日本帝国主義を。未解放部落人民の一切の諸権利を剝奪し差別している日帝を。水俣を始めとした多くの地域で、都市で、農村で、昨日まで平和に暮らしていた人々が、ブルジョアジーに殺害されているのを。北富士、三里塚のように農村を破壊している敵を。婦人に労働を強いながら、結婚、出産時に切り捨てるブルジョアジーを。労働者の生活を賭けた闘争を圧殺し、労働者の全生活を牛耳ろうとしている資本家どもを。

知っているのにもかわらず、キャツラのブルジョア法を無視してまで、遂に私にまでも無実の「罪」をなすりつけた。官憲は私が出頭しないから「共同正犯」だとヌカしたが、ばかも休み休みに言え。キャツラとの義理は全てないのだ。少しもビビることなく、正しいことは正しいと、言うべきことは言おう。南朝鮮傀儡政府が日帝と一体となって、在日朝鮮人民を弾圧しているように、左翼であるというだけで、官憲は革命派の国際連帯を恐れ、私の海外旅行をも規制している。私はキャツラにどのようなデッチアゲを受けようとも、オモオメと「無関係」を哀願する馬鹿ではない。敵に出頭することは人民の「裏切り者」になることである。人民の「意志」に私は身を捧げたい。キャツラがあらゆる手段を行使し、私を、あるいは同志達を抹殺しようとも、一部に成功させようとも、我々はくじけな

ぞ! 最後の一息まで闘うぞ!

官憲ども! お前たちは何度「証拠なき逮捕」「裁判なき拘留」裁くであろう。

臆病な戦士諸君! 君達の臆病が、土田夫人爆死、牟田泰子さん人質、同志殺しを生んだのだ。心の余裕とやさしさを失った瞬間、君達は共産主義者ではなくなるのだ。萎縮した心でどうして革命戦争を闘い抜くのか。赤軍兵士は逞しいのと同時に、やさしい心の持ち主でなければならぬ。死ぬことは決意ではない。戦争が要求するものである。完璧を貫徹できない同志よ。初期の日本での共産主義者達の拷問の歴史を知るが良い。ロシア革命戦士達の見事な獄中闘争に見習おうではないか。

内ゲバをすることしか知らない幼稚な同志諸君! サガミハラでの内ゲバのように、敵を前にした内ゲバは味方の戦線を混乱させ、敵を利用することにしかならないことを認識せよ。党派闘争とは、暴力で対立することだと思っっている諸君は、もう我々の味方ではない。敵への暴力と味方への暴力とは全く違うものである。

ブルジョアジー諸君! おまえたちの時代は去ったのだ。おまえたちが何と悪あがきしようとも、それは将棋の「端歩をつく」の如しである。おまえたちが猫犬を何匹飼育しようとも、「飼犬が主人

を噛む」ことになろう。おまえたちの愚かな足掻きが我々を強くしているのだ。もう一つ言っておこう。おまえたちの狂暴な嵐が吹き荒れば荒れる程、人民の蜂起する時が近づくと。

「マスコミの諸君、君達は三里塚に於いて官憲とぐるになって「警官殺しを青年行動隊が全面自供」のデッチアゲ記事を流したように、私に関してもデッチアゲを行い、権力に都合いいものを報道し、都合悪いものは報道しないのなら、それは君達の首を自身で締めることになるだろう。私を「犯罪人」扱いにしたこと、深く心に留めておこう。」

五十周年を迎えた日本共産党の諸君、我々は貴党創設以後の苦難と栄光の闘争史に感激しているが故に、腐敗した現在の君達を許せなす。

最後に再び同志諸兄、

白色暴力汚染地区を根絶し、赤色暴力洗浄地区を拡大しよう。

## 7・24宣言

同志たちによって、日航ジャンボハイジャック闘争は、非妥協的に闘われた。その目的は不屈に獄中で闘っている日本の同志・友人を奪還すること並びに、帝国主義者に搾取された巨万の人民の労働の代価のほんの一部を、帝国主義者からとり返すことであった。しかし今、日本帝国主義者は、デマと中傷の驚くべき宣伝によって彼等の立場の延命を計っている。

「隊伍を整えなさい。隊伍とは仲間でありませぬ。仲間でない隊伍がうまくいくはずがないではありませんか。」（賀英同志）

人民の旗赤旗は  
戦士の屍を包む

死屍固く冷えぬまに

血潮は旗を染めぬ

高く立て赤旗を

その旗に死を誓う

卑怯者

去らば去れ

我等が赤旗守る

（まるおか・おさむ 世界赤軍兵士）

編集部注——このアビールは昨一九七二年十一月二〇日発行の『日本読書新聞』に投稿掲載されたものの転載である。

## アラブ赤軍

帝国主義者は、今回のハイジャックによる政治犯奪還の我々の要求を拒否し、まったくのデマによって、人民を納得させようとしている。即ち「ハイジャッカー側からは何の要求も出されていない」という驚くべき詭弁である。我々は日本時間七月二十一日午前十時には、既に我々の要求する政治犯釈放の為の名簿と、その秘密移送の方法を、日本国内から秘密裡に要求していた。（手渡したのである）

我々は、CIA、シオニストテロ団の移送中における妨害を考慮し、政府に対し秘密裡に我々の指令に従って動く命令をした。

しかしその要求を拒否という即答を行わずにもみ消し、タイムリミットまで引き延ばしておいて、あたかも心配顔で、先に日本よりドバイに到着した朝田社長並びに運輸大臣に対し、その事実を知らせず、万全を期すよう指令するなどのポーズをとったのである。この一切の事実から乗客に長期の困苦を味わせるどころか、乗客の命を見捨てたのは田中——小林（佐藤栄作のブレーンで日航会長）であり、乗客の安全と命を救ったのは、我々の同志たちであったことが明確である。

我々同志女性兵士は、機内でハイジャック闘争に移った直後、不良弾を発見し、乗客の安全と闘争の貫徹をめざす強い意志に支えられていたが故に、とっさに自らの体を不良弾の上に被り、飛行中の爆破を最小限にいとめたのである。この犠牲的精神と無私の革命への献身があったからこそ、乗客に対する安全は保障され、高い戦士のモラルに支えられながら、闘争を更に非妥協的なものへと貫徹しえたのである。この女性同志の断固とした革命性を我々は、深い愛

## 日本の戦士へ呼びかける

——世界党—世界赤軍—世界革命統一戦線の構築を！

同志諸君、友人たち、とりわけ不可視の戦士諸君。我々は今回の闘いを教訓化し、更に世界中の戦士ときたえあひ、政治的確信を武装闘争として表現しつつ、世界革命への道を進撃することを誓う。

と連帯を込めて闘う日本の同志、友人、戦士諸君につけておきたい。

確認すべきは、乗客を虫けらのごとく無視した帝国主義者共の「人命尊重」と、女性兵士によって、自己の死をもいとわず貫かれた「人命尊重」の真実である。

そして又、日本帝国主義のずるいマヌーバーに対し、乗客の命を確保しつつ、ジャンボジェット機をこっぴどみに爆破したことも又、我々の当然の権利であったことは明確である。我々はこうした日本帝国主義者のみせかけの人命尊重というポーズを断固とした闘いを保持することによって暴露し、人民並びに乗客にかわって報復を宣言する。更に我々は、抑圧者、日本帝国主義者によって、長期に獄中で拘留されている同志、友人を必らず奪還し、世界中の革命戦場の戦士として共にきたえあひ、戦いを保持することを宣言する。

日帝に死を！

シオニストファシストに死を！

ハイジャック闘争貫徹万才！

世界革命万才！

## アラブ赤軍

そして着実に攻め込むプロレタリアートの時代へのこの端緒を、闘いを共有するあなたたち同志友人諸君に捧げる。

今回のハイジャックによる共同武装闘争も又、テルアビブ闘争を

引き上げた我々赤軍のいまだ端緒でしかないことを、我々は正当に認め、更なる飛躍にむけて進撃する。と同時に、ブラックセプテンバーが初めて登場したと同じ現象——すなわち、P.L.O右派指導部の革命への圧力として表現される「Son of Occupied Land」などという組織は実在せず、ハイジャックは暴挙である」と非難する帝国主義者たちとの「重奏を、我々はパレスチナ人民との結合において粉碎する。

行動と犠牲の上に輝くテルアビブ闘争三戦士の闘いを、我々の革命のモラルの出発点とし三戦士の生を学び、死を継承しつつ進撃する世界中の抑圧された人民のための闘いを、更なる国境を越える武装闘争で証していくことを、あなたたちに約束する。世界中の共に立つ国境をこえた戦士たちの日本革命との連帯は、武装闘争を媒介に、相互に戦線をきたえ隊伍を固めつつある。もう幾度、我々はこう呼びかけてきただろう。「日本の同志諸君、友人たち、戦線を地下に統一し、隊伍をととのえる時だ」と。そして今、闘いを終え、確信に満ちた我々の呼びかけには変わりない。そればかりか、隊伍をととのえ、共にすすむことが如何なる敵帝国主義者の策動をも打ち破る術であることを、更に更に確信を込めて、日本の同志、友人に呼びかける。

「そんなことは判っている」等と言わないでほしい。何故なら、各組織に結集している一人一人のひたむきさが、無用な分裂と内ゲバを結果として描きつづけているのだから。一面的な近視眼と党派エゴイズムは、敵帝国主義者に猶予ばかり与えつづけてきた。我々は敵の敵を射程に闘わねばならぬことを知らなければならぬ。党

綱領を導くものであり、ずるい希望を同居した「党派性」というひとよがりを解体するのだ。だからといって、我々は党派性を否定しているのではない。敵との闘いによって示される真の党派性は、革命の方向を与え、人民を党派闘争の中で改造しあうものだからである。ただ現在、各党派が、党ではなくてその志向性をもったグループであるという各自の客観的な位置をみとめることである。共通性、評価を認め合う関係の中において、はじめて各自の否定的な側面を改造しうるものであり、違いをさがし合う一見まじめでひたむきなおしゃべりは、現在の革命の段階においては利敵行為である。

空想的社会主義者に対しかつてマルクスは、彼等をこり批判している。「社会的活動のかわりに、彼ら（空想的社会主義）の個人的な考案活動があらわれ、解放の歴史的条件のかわりに空想的な条件があらわれ、次第に行われるプロレタリアートの階級への組織化のかわりに、かつてに案出した社会組織があらわれざるを得なかった、彼等にとっては将来の世界史は、彼等の社会計画の宣伝と実行とに帰着するのである。なる程彼らは、その計画において最も苦しんでいる階級としての労働者階級の利益を代表すると自認している。彼らにとってはプロレタリアートは、この最も苦しんでいる階級という立場で存在するだけなのである。」もう悪無限的な解釈論議はやめた方がよい。革命の情熱を社会主義用語とやらでふきとばし、観念化させることは、何一つ解決しないのだから。君たちは無知を笑い、マルクス主義理論武装とやらを競ってしてきた。

それは何を生み出したか？ 勝手を解釈で、相手をときふせる道具にしかかりはしなかった、しかも大学生の本棚の中で。闘いの必

派エゴイズムが人民のためという大義名分で、内ゲバをくり返している。内ゲバが単なる党派の保守であり、エゴイズムである現在の状況においては、プロレタリアートのエゴを、敵帝国主義者への反撃の力として組織し、改造し合う展望へと向ってはいかないのだ。我々は不屈に日夜闘いつづけている世界中の抑圧された人民のために闘いを組織するのだ。自分のために闘う奴は又、自分のために自己供し、自分のために戦線逃亡を企てる。友人たち、同志たち、自己保身のための党派闘争、空論は相手にせぬがよい。

我々はこう言ってやらねばならない。「蜂起」「戦争」と大仰な言葉をはく前に、毎日三十分の体操で、体をきたえた方がよい。敵自衛隊、機動隊は、日夜、我々と敵対するために、肉体訓練をもって帝国主義者共に飼いならされているのだ。わずかな時間の体操を毎日持続し得る精神力と、その自己管理こそ、蜂起戦争を生きたテーゼとしうるのだということを知らなければならぬ。「世界党」「世界プロ独」という前に一つ位、外国語を日本語と同じようにしゃべれるよう、日夜、持続的な努力をすべきである。世界党派闘争を、日本語でしか指定していかない党派の思い上がった空論主義は、益々、日本の一國性へと逆もどりする。真面目で、ひたむきなおしゃべりに同情的である程、世界革命の現実には寛大さを持ち合わせてはいないのだから。

「綱領」「綱領」と叫ぶことより（その綱領も普遍性をもたないため、一年位でひっこめられたりする代物である）日本革命統一戦線のルールをまずつくるべきである。そのシンプルなるルールを認めて結集する様々な世界観が行動によってつちかちか普遍性こそ、真の要性に要求されて、むさぼるマルクスレーニン主義は生き物のようであり、ただ他党派にやつつけられないように、又はやつつけるためにめぐるマルクスレーニン主義は、紙屑のようにはかないものである。日本の同志諸君、友人たち、われわれの任務は世界中の帝国主義者とその手先を、地球的規模、宇宙的規模で抹殺することにある。すなわち抑圧された階級の手宇宙をとりもどす作業である。そのために必要な日本における闘いは世界中の後方として日本の前線を構築することにある。帝国主義本国の前線創出の闘いを、世界中の闘う人民は後方として、日本人民の日夜の闘いを支えている。味方の連係プレーをつよめながら、持久的な前線と味方を同質にうちたえ、掘りおこし、生活を革命する作業に内在するモラルこそ、未来のモラルを表現し、不滅のプロレタリア綱領をうちたえる。生活のない職革きどりはやめた方がよい。戦後、崩壊した共産党を現実の世界革命のレベルで再建する一歩は、武装闘争を承認する小さなグループの統一戦線の内容として指定されるルールをつくりながら、今こそ始めるべき時である。「それならアラブ赤軍の考えは統一戦線党にたどりつく」などと言いつつ出ずあらゆる左翼小児病患者の懸念をもとせず、われわれは単一の党形成のために今、統一戦線構築の作業に内在するプロレタリア政治の相互改造をふまえてつ、その作業への着手をよびかける。

「左」「右」の日和見主義は合法主義によって育成されてきた。合法主義者の建軍、建軍は武装闘争ではなくコミンテルンによって、人民の注目を集めようとする。連合赤軍の同志諸君もまたその誤りを犯した。すなわち戦線の統一を非公然にはなく、公然と大衆に

しゃべりまくることによって、真の大衆への言葉は武装闘争を自ら不可能におとしこめていった。太田竜以下、あらゆる個人グループもまた、このことに無自覚に先進的人々を説得するつもりで、敵権力に、われわれの陣型を教えている。われわれは今こう呼びかけねばならない。戦線を地下に統一隊伍をととのえる時だ。非公然から公然と闘争を経て登場せよ。非合法から合法活動を創造せよ。その逆、つまり公然から非公然、合法から非合法であってはならない。

われわれは日本階級闘争の最良のテーゼとして、赤軍派の問題意識を軸に、世界革命戦場に飛翔し闘いを始めた。しかし最良のテーゼであったその内実は、今、われわれ自身によって、その一國性、合法主義、一面性と抽象性を批判されつつある。われわれの積極的批判とは、真の世界性の認識、それに規定された日本階級闘争における非合法、非公然の革命の蓄積、立体的、現実的なその任務を、武装闘争表現によった、あなたたち闘う同志、友人、戦士と交通形態を獲得することにある。

われわれはわれわれの国境をこえる武装闘争こそ、あなたたち日本の同志諸君との最高の対話の交通型態であると確信している。又同時に、赤軍派が提起した現在の日本階級闘争における最良のテーゼが、日本諸党派の狭い枠組の中で、日本のみの党派闘争の自然成長性として終始し、世界革命戦場の発展段階をブルジョア新聞によってしか対象化していなかった日本革命戦争の世界との交通形態の不在という当時の限界性を痛感した。今、われわれが引きうける任務の軸に、非公然、非合法の日本の同志友人との交通形態を、確実

質的な世界革命戦争による世界プロ独へのテーゼ

をわれわれの主體的立脚点とする。この三つのテーゼに対する積極的批判、検証——発展豊富化が現実の世界情勢の客観的要求であると認識する。

②それ故、われわれは現代世界が帝国主義諸国、社会主義諸国、第三世界階級闘争として現出されつつも、三プロックの階級闘争が同質化を深めていると認識する。即ち民族解放闘争は世界性をもった闘争であり、開花していない帝国主義国内闘争の世界性と同質の革命戦争を内実とし、社会主義本国内の真の国際主義への萌芽、プロレタリア権力の改造にむかう反修闘争と結合した世界単一の共産主義運動として、その目的及び闘いを必要としていると認識する。

③その現実において世界革命戦争の前線、銃後、後方は即ち、銃後後方前線として、帝国主義打倒の闘いを可能ならしめていると認識する。それ故、先進国革命主体論の一面性と第三世界革命主体論の一面性（ベトナム分遣隊の認識）を単一の世界革命戦争の戦略論の欠落として批判する。それ故われわれは市民社会内部に戦争の物質的基礎を構築すべき戦略展開をもさくする。

④又第一インターから第三インター（第四インター）の公然合法の組織論を止揚し、地下組織体制の強化と、武装闘争による建軍、建党的過程、即ち世界戦線構築のその過程に目的に単一の世界党——赤軍建設は、内実化すべきと認識する。それ故、公然、合法の国際会議は現在の攻防の段階において、有効でないと認識する。これらの問題から

☆われわれは、武装闘争によって、プロレタリア政治を、世界共産

に構築していく作業があることを実感している。日本の武装闘争を承認するあらゆるグループ戦士たちにとってわれわれは、現在、銃後として存在しており軍事的、兵站的に可能な、真の連帯を開始する用意がある。われわれは赤軍派や、その他の真面目で根底的で又権力につねけのおしゃべりが現実の中で解体され、新たな闘いのプロレタリア権力の萌芽が、その内側、外側から未来に在るいと湧き上ってくるのを、ここから、日本階級闘争の歴史として見るこ

とが出来る。

同志諸君、友人たち、革命の統一戦線の準備会草案を練るために、あらゆる戦線から、ある日、ある場所に、闇から闇へと、プロレタリアートのアンテナを通じて結果しよう。われわれは日本に行っても共にその作業を担うことを約束する。われわれが孫悟空になるのではなくお釈迦さんになって敵帝国主義者の全智全能をわれわれの掌で操作しようように、世界党——世界赤軍は世界中の（日本の）革命統一戦線構築に向う世界共産主義運動の中に赤々と孕まれている。

同志諸君、われわれの現在の立場、すなわちあなたたちと共に、統一戦線を担おうとするわれわれの立場はこうである。

①六十九年、日本赤軍派が定立した三つのテーゼ

(1)階級闘争の世界史的段階の規定（一九一七年の支配階級としてのプロレタリアートの現出）からの世界武装プロレタリアートのテーゼ(2)この現実に規定された現代帝国主義の分析からプロレタリアートのブルジョアジーに対する逆制約の能動のテーゼ(3)世界党——世界赤軍——世界革命戦線の陣型に領導される単一の永続的同時、同

主義運動として組織しつつ、更なる主体へ即ち世界赤軍の改組にむけてたゆまず進撃する。

☆われわれは単一の世界党——世界赤軍形成にむけて世界中の（日本の）あらゆる党派に世界革命統一戦線構築を共同に任うことを呼びかける。

☆われわれは国境をこえる共同武装闘争の闘争形態を世界共産主義運動のプロレタリア政治の表現として堅持する。

☆われわれはプロレタリア国際主義と組織された暴力を世界中の各本国での革命の旗印とする事を呼びかける。

☆われわれは世界中を非公然非合法に移動し得るプロレタリアのシルクロードを世界中の河川の戦線と共に相互に構築し合う。

☆われわれは帝国主義者の兵站到るプロレタリアの兵站を革命の蓄積として準備する。

☆われわれは反帝反シオニズム反反動反修を武装闘争によって表現する、革命を堅持する世界中の同志友人を仲間とする。

☆われわれは、国の革命に至る過程を武装闘争によって闘いぬいている世界中の同志を軸にした、その自主更生を主体として闘う。（われわれは既成の国家が、いかに革命的であろうとも政策が歴史的制約にある現在、それらの国家に依拠しない。制約をうけない。）

☆われわれは世界中の各組織に対し各国革命闘争が（それに表現される党派利益）が、世界革命の利益に従属すべきであると宣言する。（それ故無駄な内ゲバは愚の骨頂）

☆われわれは共同武装闘争を目的化しない。しかしそれが相互の持久的な共同作業の出発点であると原則的に認識する。

☆われわれのすべての革命の財産は共通の目的に向うすべての闘う人々のために解放される。

☆われわれのいう武装闘争とは合法主義者、右翼日和見主義者のそのエスカレーション路線ではなく、建軍、建党を包摂する武装闘争であり、一見それと切断された大衆の自発的闘いと結合する。

そして更に愛すべき日本の同志、友人、戦士諸君。今、世界的規模で武装闘争によって行われている政治犯奪還闘争を、国境の内側から帝国主義本国、日本から開始すべきであると宣言する。我々は幸運にも世界中の戦線との連帯の強化の中で、その戦術を可能ならしめている。武装闘争を勇敢に闘い抜いた結果として、長期獄中にあり完結で闘い抜いているあらゆる個人に対し、我々は必らず奪還でその戦士の名誉を回復するために、闘う必要がある。闘いぬいた

## 日航404便ハイ・ジャック闘争万才！——日本赤軍—VZ 58

—次の文章はこの間の闘争に関する我々の基本的見解である。

★全世界のプロレタリア人民の皆さん！

七月二〇日の日航四〇四便ハイジャック闘争は米帝国主義を頭とする全世界の帝国主義—反動派—イスラエルシオニズムと結託し、帝国主義支配秩序を強力に維持している日本帝国主義に対する世界革命戦争派の共同武装闘争として貫徹されました。

日本帝国主義は、石油資源の九〇%以上を中東に依存し、メイド

る事実などにみられるようにイスラエルに加担し、アラブを抑圧しつづけようとしています。

日本帝国主義は、アラブ人民に対して悪事を働いているのみならず、内外に対する侵略・抑圧・反革命を押し進め、今や世界のプロレタリア人民の共通の敵として立ち現れてきています。それは単に人を殺したり、収奪したりするというのとは根本的に異なり、地形を変え、海の色を変え、地球そのものを破壊していく性格となっています。まさに全人民への寄生の構造は人類史上最悪のものとなっています。

又、日航は半官半民の「国策会社」であり、日帝の対外侵略の第一の担い手を運ぶ役目を引き受けています。その上、その巨大化した情報網によって、日本の政治—公安警察ばかりではなく、CIAやイスラエル秘密警察にまで世界の闘う人民を売り渡しているのです。

この日帝と、その出先機関—日航を世界革命戦争派が攻撃対象とすることは、どこの国にあっても全く正しい道理にかなったことではありません。

★親愛なる同志・友人の皆さん！

闘いは「第三世界人民」に依拠した地点にあったのでもなければ、外から日帝を包囲する戦略の中にあっただけでもありません。正に世界プロレタリアートの発展段階として、パレスチナ解放闘争においては前線の位置に、日本帝国主義打倒においては銃後の位置にという世界革命統一戦線内部の弁証法的関係を展開させる闘いとしてあ

同志には同志的返礼を我々には行う。それが革命のマナーである。そしてそれを主体的に任うべきはあなたたち日本の同志たち友人たちである。

我々は国際主義と抑圧された人民の暴力を組織し、敵のあらゆる装置を粉砕するために更に更にすすむ。我々は行動と犠牲の上に燃える革命を堅持する。日本の闘う同志、友人、戦士諸君。共に戦線を地下に結合しつ、別個に敵を撃ちつづけよう。我々は赤々ともえる帝国主義本国日本国内の革命の火の手をその強い不滅の炎を我々の胸に描きつつ進撃する。

行動と犠牲の上にもえる革命万才！

一九七三年七月二四日

インジャバンの商品で埋め尽しており、アラブへの経済的侵略—収奪を徹底しておこなっており、そうであるが故に、中東世界の安定した秩序を要求しています。そしてこの秩序がイスラエルシオニズムの反革命によって根本的には支えられている以上、パレスチナ人民の闘いは不可避的に日本帝国主義を極めて重大な敵対者として浮上させずにはおきません。更に日本帝国主義はイスラエルを承認しているだけでなく、自衛隊幹部のイスラエル軍との交流、軍用品や資金の援助、又、テルアビブ闘争の時四〇億円近くの金を渡してい

ったのです。今日、世界は最後の全世界的階級攻防のまっただ中にあり、プロレタリアートとブルジョアジーが地球の規模で戦争をし、世界プロレタリアートの攻撃型陣型は、徐々にブルジョアジーをしめあげていきつつあります。この時代において、今回の闘いは全く歴史的必然であり、階級闘争の発展に正しく適応したものです。

しかし、気をつけて前進していかねばなりません。イスラエルが、テルアビブ闘争後にその同じ質で反革命戦争をいどんできて大量のテロをおこなったように、今回も敵は、ハイジャックの質に応じて必ず攻撃をしてくるでしょう。合法主義者・中間主義者は全てかかる銃を軸とした「反革命戦争」によって一人残らず殺されるしかないので。勿論、逃げてばかりいては敵の思うつぼです。世界革命戦争は、人類最後の唯一正しい戦争であり現実のあるがままの世界の階級攻防を正しく分析し、一貫した政治的立場をもって計画的に前進すれば、必ず勝利は我々のものとなります。

★ブルジョアジー及びその手先となっている諸君！

我々は諸君らに警告しておく。諸君らが搾取の上に安座し、欲望をほしのままにし、プロレタリア人民の生き血を吸いつづける限り、諸君らその肉体を含めて粉砕する。諸君らがどの地域にしようと、どこへ逃げようと赤軍は必ずその任務をやりとげる。

★日航四〇四便の乗客並びに乗務員の皆さん！

あなた方が、いわば犠牲になり、大変な迷惑をこうむったことは事実です。それは認めざるを得ません。しかし、それと同時に今回の

闘いにおいてそれは不可避であったこと、その一切の責任は今日の諸矛盾の根源となつてゐる日本帝国主義と、その上層部にあることを明らかにしておきます。口先では「人命尊重が第一」などとわめきちらしながら、その実自らの政治的利益を冷酷に計算しているのが彼らなのであり、その為には「乗客の生命」など彼らにとってはどうでもいいことなのです。重要なこと、自己に不利なことは、人民に対して一切明らかにせず、支配秩序の維持の為にどんな悪らつなことでもやるのが彼らなのです。

全世界ですすみますプロレタリアートとブルジョアジーの非和解的階級対立が顕在化してきてゐる以上、中間的立場は許されず、どちらかの側につきしかないのであります。我々は、敵になるか味方になるかの選択を要求します。そして、皆さんといつの日か必ず、手を握り合い愛や悲しみや怒りを共有しながら、進める日がくる事を信じています。

★再びプロレタリア人民同志・友人の皆さん！

世界革命戦争の矢は既に打ち込まれてあります。人類史上最悪にして最強の敵に対する矢は、世界革命戦争統一戦線の布石であつたテ

## 8・4 赤軍派政治集会へのアピール

重信房子

8・4 共産同赤軍派政治集会に結集された同志諸君！

7・20日航機H・J闘争を貫徹した我々アラブ赤軍は同志諸君に

宣言する。

世界を戦場とし、非公然、非合法下に進行しつつある世界革命戦

ルアビブ闘争によって、そして世界革命戦争統一戦線による共同武装闘争である日航ハイジャック闘争によって、更に勇敢なパレスチナゲリラ戦士諸君の闘いによって、力強くうちなされていきます。我々は、自ら生み出した矛盾を解決する能力がないばかりか、一層拡大することしかできず、社会的悲惨の根源となつてゐる帝国主義を、歴史のくずかごに投じる為に全世界のプロレタリア人民とともに進みます。

我々は、世界単一のプロレタリア独裁を樹立し、賃金奴隷制を廃止し、あらゆる隷属状態からの解放を実現する為に、同志友人の皆さんと共に進みます。

我々は、PFLP、西ドイツ赤軍派、トルコ人民解放軍、その他多くの世界革命戦争派、無数のゲリラ戦士達と共に進みます。

★日航ハイジャック闘争万歳！

★ディルヤシン作戦勝利万歳！

★バーシム奥平、サラハ安田両戦士万歳！

★全世界の無名戦士とプロレタリアート万歳！

一九七三年八月

争、世界帝国主義との熾烈な対峙段階を、日帝本国内で同質に闘い抜こう。赤軍派の再建とは、この一点を闘い抜く地下戦争に勝利する以外ないことを我々は宣言する。

日本赤軍の同志諸君！

こうした公然の政治集会と訣別し、非公然から公然、非合法から合法へと闘い抜くことを心から願う。

その逆、つまり公然から非公然、合法から非合法であつてはならないことを断言する。世界革命戦争を共に闘い抜くために、これが最後の集会であることを願う。

闘いを経た雄弁さによって、そして人民によって組織される赤軍建設に向けた政治集会こそが、党再建の第一歩となる。我々はここに結集した同志がこのことを理解し、こうした党的合法志向と訣別し、地下に自らを鍛え、共に我々と闘うことを心から願う。

赤軍派の再建に向けて！

8/3 赤軍兵士 重信房子

あなたの不用な本は

早稲田

谷 書 房 へ

- 学生さん大歓迎
- 古書高価買入れ
- 社会科学書販売

新宿区戸塚1-512  
Tel. 202-4750